



ご挨拶

第27回日本産婦人科・新生児血液学会
学術集会会長 大戸 齊

新緑の季節を迎え、日本産婦人科・新生児血液学会の会員の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、第27回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会を2017年（平成29年）6月2日（金）、3日（土）の2日間の日程で福島市の「コラッセふくしま」にて開催いたします。

本学会は研究会から数えると40年の歴史を有し、この間一貫して、産科大出血・凝固障害・凝固異常、妊婦の血栓症、胎児モニター、新生児仮死、新生児脳出血・貧血、母児間血液型不適合妊娠、新生児感染症など、幾多の問題に取り組み、母と子を守り続けてきました。この学会は産科学と新生児学を専らとする医師たちに加えて、麻酔科や輸血医学などの専門家が知恵を出し合い、母と子に関する総合的な医学分野を樹立してきた横断的でユニークな存在として確立しています。

第27回の学術集会は、テーマを「産科学、新生児学と輸血医学の邂逅」として、さらにその意義を深めた学術集会となるように様々な話題を取り上げてみました。

シンポジウムでは、「危機的大量出血：フィブリノゲンをどう使う」と題し、フィブリノゲン製剤の保険適応を目指して、医学界のみならず国民的、社会的な観点から取り上げます。また、ワークショップでは、「産科・小児科双方から血友病周産期を考える」、「胎児輸血の適応と進歩」などを企画しております。さらに、教育講演には「ジカウイルスと妊婦、胎児」、「先天性溶血性貧血」を取り上げました。さらには68題の一般演題が登録されました。主催者として大変うれしい限りです。多くの参加者の皆様により活発な議論が交わされることを期待いたします。

会場は、福島駅西口から歩いて3分の「コラッセふくしま」です。駅から大変近く宿泊施設も周辺に多くあります。この学術集会を機会に多くの皆様に福島の初夏を楽しんでいただければ幸甚です。福島県立医科大学の輸血・移植免疫部はNICUと産婦人科の協力を得て、学会が盛会に滞りなくとり行われるよう準備に力を尽くしております。2011年の東日本大震災から復興しつつある福島での学会にふるってご参加下さいますようお願い申し上げます。

第27回日本産婦人科・新生児血液学会 ご案内

会期：平成29年6月2日（金）・3日（土）

会場：コラッセふくしま 4階

〒960-8053 福島市三河南町1番20号

学術集会会長：大戸 齊

福島県立医科大学医学部

輸血・移植免疫学講座 名誉教授

HP：<http://www.jsognh.jp/scientific/>

第27回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会事務局

福島県立医科大学医学部総合周産期母子医療センター内

〒960-1295 福島市光が丘1番地

TEL：024-547-1563 FAX：024-548-2177

E-mail：jsognh29@fmu.ac.jp

会場へのアクセス

■学会：コラッセふくしま 4階

第1会場：多目的ホール

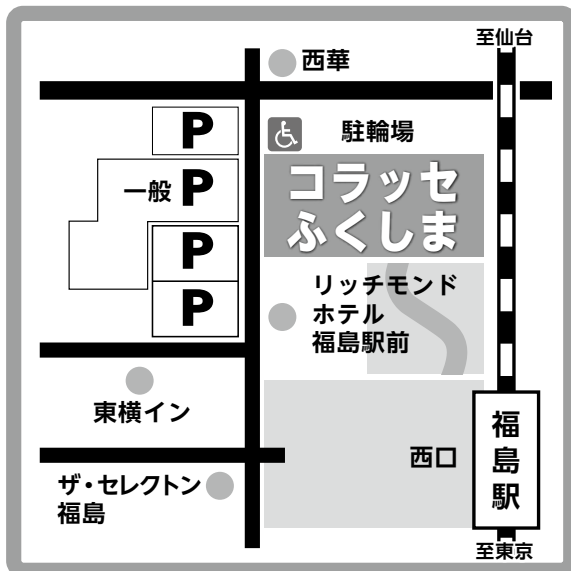
第2会場：401

第3会場：402（企業展示、休憩談話コーナー）

〒960-8053 福島市三河南町1番20号 <http://www.corasse.com/>

- JR福島駅（東北新幹線、東北本線、奥羽本線）西口より徒歩3分
- 東北自動車道 福島西IC、飯坂ICから車で約15分
コラッセふくしま有料駐車場利用可
（30分まで無料、以降30分毎100円※共通駐車サービス券が使用可能）
近隣に有料駐車場（民間）あり（30分100円～150円）

場所は下記拡大案内図をご覧ください。

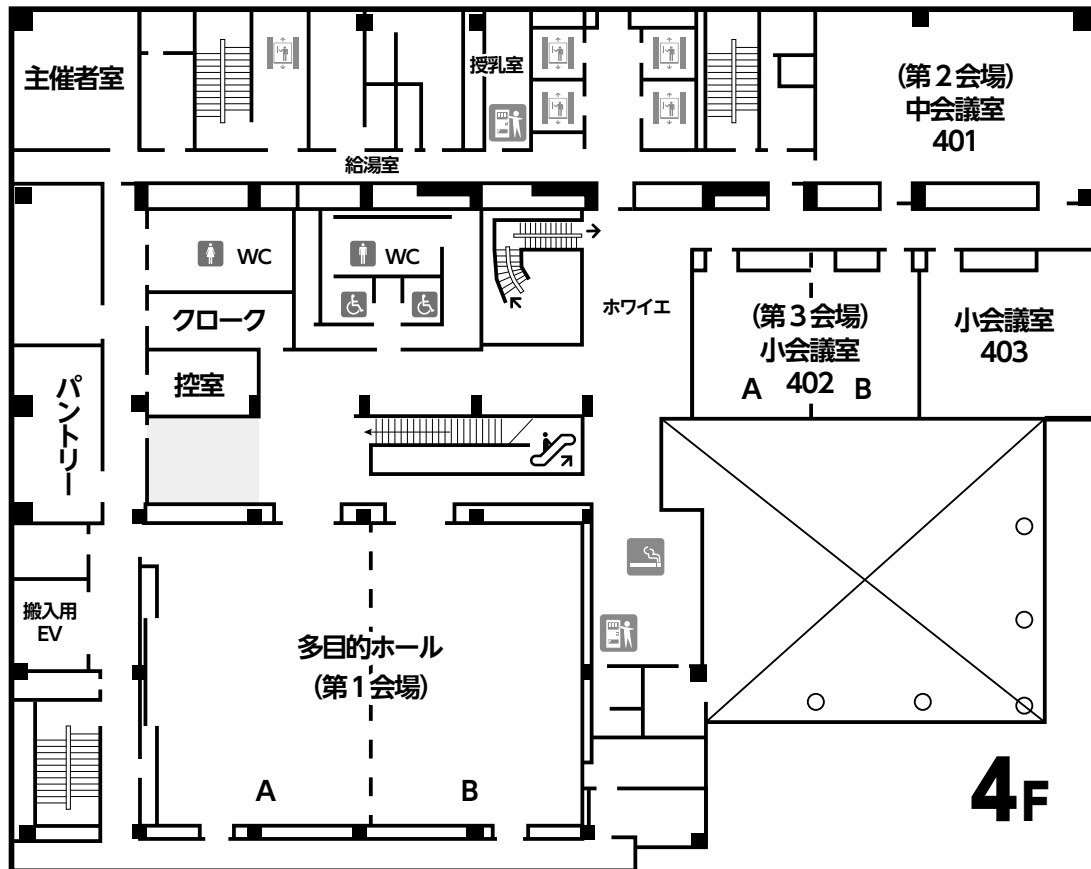


■懇親会：ザ・セレクトン福島

〒960-8068 福島市太田町13-73
TEL024-531-1111(代表)
<http://celecton-fk.jp>

会場のご案内

コラッセふくしま 4階



参加者の皆様へ

【参加受付】

受付日時：6月2日（金） 8：40～18：00
6月3日（土） 8：10～14：30
受付場所：コラッセふくしま 4階 受付カウンター

【参加証】

参加費：	会員・非会員	12,000円
	初期研修医 学部学生 医療技術者（助産師、看護師、 臨床検査技師など）	無 料

所属・氏名をご記入の上、会場では必ずご着用下さい。（学生の方は、当日学生証をご提示下さい。）

【抄録集】

学会員の方は、本号「学会抄録集」を忘れずにご持参下さい。（会員の方で未着の場合は、当日学会デスクにお申し出下さい。）非学会員の方および学会員の方で抄録集を複数冊必要な場合は、当日受付にて1冊3,000円で販売致します。

【学会単位】

本学会出席は、日本産科婦人科専門医（10単位）、日本小児科学会専門医（3単位）および日本周産期・新生児医学会（専門医用：発表のみ10単位、専門医更新用：参加2、発表2単位）、輸血細胞治療学会（学会認定医、認定輸血検査技師、学会認定・臨床輸血看護師）の対象になります。

産婦人科の先生は、E医学会カードで参加登録を致します。

小児科の先生の単位は参加証（名札）に印刷されておりますので、ご利用下さい。

【懇親会】※無料

日時：6月2日（金）18：40～20：30
会場：ザ・セレクトン福島 安達太良の間 <http://celecton-fk.jp>
福島の地酒、郷土料理を豊富に取り揃え、多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【学会入会費】

年会費8,000円の納入、新規入会手続きについても当日学会デスクにて受け付けます。

【会場内での呼び出し】

各会場でのアナウンスおよびサイドスクリーンによる呼び出しは行いません。

【ご注意】

1. 会場内での携帯電話などはマナーモードに設定していただくか、電源をお切り下さい。
2. 講演・発表中の会場での写真・ビデオ撮影は固くお断り致します。
3. 口演発表などにおける質疑・討論は必ず座長の指示に従い、所属・氏名を告げてから、手短かに発言して下さい。

【クローク】 ※貴重品やパソコンはお預かりできません。

コラッセふくしま4階の会場内にクロークを設けます。利用時間は下記のとおりです。

6月2日（金）8：40～18：30 6月3日（土）8：10～16：00

【福島駅西口のホテル】

ザ・セレクトン福島 <http://celecton-fk.jp/>
東横イン福島駅西口 <http://www.toyoko-inn.com/hotel/00030/>
リッチモンドホテル福島駅前 <http://richmondhotel.jp/fukushima/>
アパホテル福島駅前 <https://www.apahotel.com/hotel/touhoku/fukushima-ekimae/>
福島グリーンパレス <http://www.fukushimagp.com/access.html>

発表要項

【座長の皆様へ】

担当のセッション開始15分前までにPC受付にて受付を済ませ、会場内の次座長席へお越し下さい。進行および時間管理は座長に一任致します。時間厳守の上、円滑な進行にご協力をお願い致します。

【演者の皆様へ】

本学会での発表はすべてPC発表となっております。

PC受付を済ませ、発表15分前には各会場前方の「次演者席」に着席し待機してください。

★事前スライド受付は行いません。全て当日受付となります。時間に余裕を持って受付ください。

特別講演・教育講演・シンポジウム・ワークショップ・一般演題などそれぞれ講演時間と討論時間が異なります。事前にメールにてご連絡させていただいておりますが、各セッションをご参照いただき、ご不明の場合には学術集会事務局までお問い合わせください。

一般演題は、1演題につき発表7分間、質疑応答3分間です。

*スライドの枚数に制限はありませんが、スケジュールが非常にタイトであるため、時間厳守でお願いいたします。

パワーポイントの「発表者ツール」機能は使用できません。PC受付のパソコンは台数が限られています。学会場ではレイアウト修正のみとし、データ修正等は事前に済ませてから会場へお越しください。

USBメモリー、CD-Rなどは各自にてウイルスチェックを行ったうえで持参ください。

【注意事項】

- 1) 学術集会当日は、発表の30分前までに、PC発表用の媒体をPC受付へ持参下さい。
- 2) スライドの注意事項
 - ①発表データは、USBメモリー、CD-Rを持参下さい。
 - ②Macintoshによる発表の場合は、自身のPCを持参いただき、PC受付をして下さい。
必ず変換アダプターを持参下さい。講演時は、オペレーター卓に置いたMacintoshを自身で、舞台上のキーボードかマウスで操作して頂きます。
 - ③当日、用意するパソコンのOSはWindows7、プレゼンテーションソフトは、PowerPoint2010です。
 - ④スライド作成ソフトはWindows PowerPoint2010以上のものを使用ください。
(PowerPoint2003/2007の場合、文字等がずれる場合があります。)
 - ⑤フォントはOS標準のもののみ使用下さい。
 - ⑥発表データのファイル名を「セッション名__演題番号__演者名(フルネーム)」として下さい。
 - ⑦画面の解像度は、XGA(1024×768)でお願いします。

⑧ CD-R (CD-RW 不可) への書き込みは、ISO9660方式をお使い下さい。

※パケット方式は会場 PC で読み込めない恐れがあります。

3) 自身の PC を持込みの場合

① プロジェクターとの接続ケーブルの端子はミニ Dsub-15ピン、もしくは HDMI です。

② PC によっては専用のコネクタが必要となりますので、必ず持参して下さい。

*特に Ultrabook、MacBook Air 等小型 PC は、別途附属コネクタが必要な場合がありますので、持参ください。

③ バックアップ用として必ずメディア (USB メモリー、CD-R など) も持参下さい。

④ コンセント用電源アダプターを必ず持参下さい。

4) 次演者の方は、会場内の次演者席での待機をお願い致します。

5) 講演時は、自身で講演台上のキーボードかマウスで発表スライドを操作して頂きます。

6) 発表終了 1 分前にベルが 1 回、既定発表終了時間に 2 度のベルが鳴ります。

【問い合わせ先】

第27回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会 運営事務局
福島県立医科大学総合周産期母子医療センター内

〒960-1295 福島市光が丘 1 番地

TEL : 024-547-1563 FAX : 024-548-2177

E-mail : jsognh29@fmu.ac.jp

第27回日本産婦人科・新生児血液学会 タイムスケジュール

第1日目 2017年6月2日(金)				第2日目 2017年6月3日(土)				
コラッセふくしま 4階				コラッセふくしま 4階				
	第1会場	第2会場	第3会場		第1会場	第2会場	第3会場	
8:40~	受付開始			8:10~	受付開始			
9:00	開会の挨拶			8:30~9:00	教育講演2 「ジカウイルスと妊婦、胎児」 座長：細矢 光亮 演者：西條 政幸			
9:05~9:35	教育講演1 「先天性溶血性貧血」 座長：原 寿郎 演者：大賀 正一			9:05~10:05	一般演題⑦ 演題番号 41~46 座長：水上 尚典 金井 誠	一般演題⑧ 演題番号 47~52 座長：伊藤 悦朗 白川 嘉継		
9:40~10:50	一般演題① 演題番号 1~7 座長：安達 知子 板倉 敦夫	一般演題② 演題番号 8~14 座長：長 和俊 石黒 精		10:10~12:05	三学会合同シンポジウム (日本産婦人科・新生児血液学会、日本心臓血管外科学会 日本輸血・細胞治療学会) 「危機的大量出血：フィブリノゲンをどう使う」 座長：池田 智明 大戸 斉 花井 十伍 演者：花井 十伍 牧野真太郎 田中 博明 上田 裕一 山本 晃士 大平 勝美 秋野 公造			
10:55~11:40	会長講演 「産科学と新生児学に架ける輸血医学」 座長：藤森 敬也 演者：大戸 斉							
11:50~12:50	ランチョンセミナー1 共催：旭化成ファーマ(株) 「新生児凝固線溶系と胎児炎症反応症候群(FIRS)」 座長：池ノ上 克 演者：茨 聡							
12:55~13:35	評議員会、総会							
13:35~14:45	一般演題③ 演題番号 15~21 座長：杉浦 真弓 小林 隆夫	一般演題④ 演題番号 22~28 座長：二井 理文 細野 茂春		12:10~13:10	ランチョンセミナー2 共催：バイオセラティブ・ジャパン(株) 「取り残された血友病保因者問題」 座長：今泉 益栄 演者：西田 恭治	ランチョンセミナー3 共催：(一社)日本血液製剤機構 「敗血症とDICの総合管理」 座長：高橋 幸博 演者：田上 孝		
14:50~15:50	一般演題⑤ 演題番号 29~34 座長：西久保敏也 渡辺 尚	一般演題⑥ 演題番号 35~40 座長：小山 典久 高橋大二郎		13:15~14:35	一般演題⑨ 演題番号 53~60 座長：橋 大介 前田 眞	一般演題⑩ 演題番号 61~68 座長：川口 千晴 吉尾 博之		
15:55~17:15	ワークショップ1 「胎児輸血の適応と進歩」 座長：室月 淳 梶原 道子 演者：日高 庸博 水内 将人 高橋雄一郎 小澤 克典				14:35~15:50	ワークショップ2 共催：バクスアルタ(株) 「産科・小児科の双方から血友病周産期管理を考える」 座長：瀧 正志 演者：佐道 俊幸 長江 千愛 野上 恵嗣		
17:15~18:30	ビタミンKフォーラム 共催：エーザイ(株) 「新生児と乳児のビタミンK欠乏性出血症」 座長：白幡 聡 西口 富三 演者：荒木 俊介 西口 富三				15:50	閉会の挨拶		
18:40~20:30	懇親会(ザ・セレクトン福島)				16:00~17:30	編集委員会、幹事会		

企業展示・休憩談話コーナー

企業展示・休憩談話コーナー

(表中敬称略)

■会長講演

第1日目 2017年6月2日(金) 10:55~11:40

「産科学と新生児学に架ける輸血医学」

S1-4

座長： 福島県立医科大学産科婦人科学 教授

藤森 敬也

演者： 福島県立医科大学輸血・移植免疫学 名誉教授

大戸 斉

■教育講演

教育講演1 第1日目 2017年6月2日(金) 9:05~9:35

「先天性溶血性貧血 ~遺伝子診断と疾患概念から~」

S5-6

座長： 福岡市立こども病院 院長

原 寿郎

演者： 九州大学医学部成長発達医学 教授

大賀 正一

教育講演2 第2日目 2017年6月3日(土) 8:30~9:00

「ジカウイルスと妊婦、胎児」

S7-8

座長： 福島県立医科大学小児科学 教授

細矢 光亮

演者： 国立感染症研究所 ウイルス第一部 部長

西條 政幸

■三学会合同シンポジウム

第2日目 2017年6月3日(土) 10:10~12:05

(日本産婦人科・新生児血液学会、日本心臓血管外科学会、日本輸血・細胞治療学会)

テーマ： 「危機的大量出血：フィブリノゲンをどう使う」

座長： 三重大学産科婦人科 教授

池田 智明

福島県立医科大学輸血・移植免疫学 名誉教授

大戸 斉

厚生労働省血液事業部会運営委員

花井 十伍

「献血血液の適切な活用によるフィブリノゲン製剤について」

演者： 厚生労働省血液事業部会運営委員

花井 十伍

「周産期におけるフィブリノゲン製剤使用の現状」

S9-10

演者： 順天堂大学産婦人科 准教授

牧野真太郎

「妊産婦死亡からみるフィブリノゲンと産科危機的出血」 S11
演者： 三重大学産科婦人科 田中 博明

「心臓大血管手術における大量輸血と凝固障害」 S13
演者： 奈良県総合医療センター 総長 上田 裕一

「救命に貢献するフィブリノゲン製剤」 S15-16
演者： 埼玉医科大学総合医療センター 教授 山本 晃士

「過去の経緯と患者の立場から」
演者： 厚生労働省血液事業部会運営委員 大平 勝美
社会福祉法人はばたき福祉事業団 理事長

「胃がん予防のためのピロリ菌除菌の適応拡大と保険適応への道のり」
演者： 参議院議員 秋野 公造
参議院法務委員長
(元) 厚生労働省医薬食品局血液対策課

■ワークショップ

ワークショップ1

第1日目 2017年6月2日(金) 15:55~17:15

テーマ： 「胎児輸血の適応と進歩」

座長： 宮城県立こども病院産科 科長 室月 淳
東京医科歯科大学輸血部 部長 梶原 道子

「胎児輸血の実際と困難症例」 S17-18
演者： 九州大学病院総合周産期母子医療センター 日高 庸博

「胎児輸血の国内での状況」 S19-20
演者： 札幌医科大学産科・周産期科 講師 水内 将人

「一絨毛膜双胎における胎児輸血～循環虚脱別にみた長期予後の解析～」

S21-22

演者： 長良医療センター産婦人科

高橋雄一郎

「胎児輸血実施マニュアル」

S23-24

演者： 成育医療センター胎児診療科

小澤 克典

ワークショップ2

第2日目 2017年6月3日(土) 14:35~15:50

テーマ： 「産科・小児科の双方から血友病周産期管理を考える」

座長： 聖マリアンナ医科大学小児科 特任教授 瀧 正志
(同 大学横浜市西部病院小児科部長兼こどもセンター長)

共催： バクスアルタ株式会社

「血友病および保因者妊婦の妊娠・分娩管理」

S25-26

演者： 奈良県立医科大学産婦人科 准教授

佐道 俊幸

「血友病新生児の分娩時出血に関する検討」

S27-28

演者： 聖マリアンナ医科大学小児科

長江 千愛

「血友病および保因者新生児の管理」

S29-30

演者： 奈良県立医科大学小児科 准教授

野上 恵嗣

■ランチョンセミナー

ランチョンセミナー1

第1日目 2017年6月2日(金) 11:50~12:50 第1会場

「新生児凝固線溶系と胎児炎症反応症候群(FIRS)」

座長： 宮崎大学 学長

池ノ内 克

演者： 鹿児島市立病院総合周産期母子医療センター長

茨 聡

共催： 旭化成ファーマ株式会社

ランチョンセミナー2

第2日目 2017年6月3日(土) 12:10~13:10 第1会場
「取り残された血友病保因者問題」

座長: 宮城県立こども病院 副院長兼血液腫瘍科長

今泉 益栄

演者: 国立病院機構大阪医療センター

西田 恭治

共催: バイオセラティブ・ジャパン株式会社

ランチョンセミナー3

第2日目 2017年6月3日(土) 12:10~13:10 第2会場
「敗血症とDICの総合管理」

座長: 奈良県赤十字血液センター 所長

高橋 幸博

演者: 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター 講師

田上 孝

共催: (一社)日本血液製剤機構

■ ビタミンKフォーラム

第1日目 2017年6月2日(金) 17:15~18:30 第1会場

座長: 産業医科大学 名誉教授

白幡 聡

静岡県立こども病院 副院長兼周産期センター長

西口 富三

共催: エーザイ株式会社

「新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症予防対策の現況
—福岡県での調査を中心として」

演者: 産業医科大学小児科

荒木 俊介

「胎児および早発型新生児ビタミンK欠乏性出血症に関する実態調査」

演者: 静岡県立こども病院 副院長兼周産期センター長

西口 富三

学術集会賛助リスト

本学術集会にあたり、下記各位よりご支援、ご協力をいただきました。
ここに記して、厚くお礼申し上げます。

<共 催>

エーザイ株式会社
旭化成ファーマ株式会社
一般社団法人日本血液製剤機構
バイオベラティブ・ジャパン株式会社
バクスアルタ株式会社

<展 示>

川澄化学工業株式会社
ドレーゲル・メディカルジャパン株式会社
アトムメディカル株式会社
日本コヴィディエン株式会社
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
科研製薬株式会社
ラジオメーター株式会社

<協 賛>

ドレーゲル・メディカルジャパン株式会社
アイクレオ株式会社
株式会社明治

(平成29年4月14日現在)

■一般演題 平成29年6月2日(金) 9:40~15:50 コラッセふくしま 4階 第1会場
第2会場 : 演題番号 1-40

平成29年6月3日(土) 9:05~14:35 コラッセふくしま 4階 第1会場 : 演題番号41-68
第2会場

● 査読○の演題は、本誌後半の学会誌に原著/症例報告として内容が掲載されています。

演題番号	査読	所属	氏名	演題名	ページ
2017年6月2日(金) 9:40~10:50 第1会場					
一般演題①:母体(血栓・止血・血友病)					
座長: 安達 知子 総合母子保健センター愛育病院産婦人科 板倉 敦夫 順天堂大学産婦人科					
1		埼玉医科大学総合医療センター産科	増子 寛子	羊水塞栓症の発症をとらえる ~臨床的羊水塞栓症と産後出血過多の鑑別~	S31-32
2		浜松医療センター産婦人科	芹沢麻里子	周産期センターにおける TeamSTEPS の導入効果	S33-34
3		順天堂大学産婦人科	北村 絵里	巨大子宮筋腫と DVT のため、CIABO・IVC filter を留置し 帝王切開・筋腫核出術を施行した1例	S35-36
4	○	聖マリアンナ医科大学産婦人科	阿部 恭子	低用量経口避妊薬内服中に発症した VTE に対する DOAC の使用	2-3
5	○	長崎大学産婦人科	淵 直樹	先天性第V因子欠乏症合併妊婦の1例	4-5
6		長崎大学産婦人科	永田 幸	抗凝固療法による出血傾向のため管理に難渋したプロテインS 欠乏症妊婦の1例	S37-38
7		産業医科大学産婦人科	朝永 千春	当院で管理した妊娠産褥期の深部静脈血栓症症例の検討	S39-40

2017年6月2日(金) 9:40~10:50 第2会場					
一般演題②:胎児・新生児(母児間不適合・感染症)等					
座長: 長 和俊 北海道大学周産期母子医療センター 石黒 精 国立成育医療研究センター教育研修部					
8		弘前大学輸血部	玉井 佳子	新生児・乳児における赤血球抗原に対する同種免疫に関する 多施設共同研究【第1次調査中間解析】	S41-42
9	○	神奈川県立こども医療センター血液・再生医療科	浜之上 聡	母親由来の移行抗体による NAIT 治療中に、輸血による新たな HLA 抗体を産生した1例	6-7
10		福島県立医科大学輸血・移植免疫部	池田 和彦	赤血球輸血により赤血球不規則抗体を産生した乳児の2症例	S43-44
11	○	奈良県立医科大学新生児集中治療部門	友松 典子	新生児尿中 CMV-DNA PCR 定量検査により診断した先天性 CMV 感染症の3例	8-9
12	○	三重大学産婦人科	鳥谷部邦明	妊娠中の抗サイトメガロウイルス IgG 抗体 avidity の解釈の 複雑性:妊娠後期に高 avidity であった一例	10-11
13		三重大学産婦人科	真木晋太郎	胎児発育不全に対するタダラフィル経母体投与の安全性に 関する検討(第I相試験)	S45-46
14		広島大学小児科	西村 紫帆	EMA 結合能による遺伝性球状赤血球症(HS)の診断 - HS 母親からの新生児における早期検査の有用性	S47-48

2017年6月2日(金) 13:35~14:45 第1会場					
一般演題③:母体(血栓・止血・血友病)					
座長: 杉浦 真弓 名古屋市立大学産婦人科 小林 隆夫 浜松医療センター					
15	○	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院小児科	森 美佳	分娩時に第Ⅷ因子製剤の補充療法を必要とした症候性血友病 A 保因者	12-13
16		産業医科大学産婦人科学	金城 泰幸	血友病保因妊婦の妊娠・分娩管理の経験	S49-50
17	○	聖マリアンナ医科大学産婦人科	本間 千夏	先天性無フィブリノゲン血症を合併した子宮筋腫の周術期 管理	14-15
18		浜松医科大学産婦人科	小田 智昭	羊水が血液凝固線溶系に及ぼす影響- ROTEM (Rotational thromboelastmetry) を用いた解析-	S51-52
19	○	聖マリアンナ医科大学産婦人科	佐藤 匠	静脈血栓塞栓症合併の卵巣癌患者に対する周術期管理の経験 - DOAC を用いた一例-	16-17
20	○	奈良県立医科大学産婦人科	穂西 実加	常位胎盤早期剥離の既往がある低フィブリノゲン血症合併 妊娠の周産期管理を行った2症例	18-19
21	○	北海道大学産科・生殖医学分野	森川 守	当科における妊娠中ならびに分娩後における静脈血栓塞栓 症の発症予防の成績を評価する	20-21

■一般演題 平成29年6月2日(金) 9:40~15:50 コラッセふくしま 4階 第1会場
 平成29年6月3日(土) 9:05~14:35 コラッセふくしま 4階 第1会場 : 演題番号1-40
 第2会場 : 演題番号41-68

演題番号	査読	所属	氏名	演題名	ページ
2017年6月2日(金) 13:35~14:45 第2会場					
一般演題④:母体・児(母児間感染)等					
座長: 二井 理文 三重大学産婦人科 細野 茂春 日本大学小児科					
22	○	山口大学小児科	松隈 知恵	胎児母体間輸血症候群5例の臨床的特徴	22-23
23		武蔵野赤十字病院新生児内科	高橋 秀弘	胎児母体間出血の3例	S53-54
24	○	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院小児科	鈴木 真波	当院における母児間輸血症候群3症例の検討	24-25
25		聖マリアンナ医科大学 小児科	伊藤 祐順	母子間輸血症候群により重症新生児仮死を呈した一例	S55-56
26		福島県立医科大学総合周産期母子医療センター	柏原 祥曜	福島県における10年間の胎児母体間輸血症候群の検討	S57-58
27	○	東京都立墨東病院産婦人科	森谷 方良	産後出血に対するクリオプレシピテートの早期投与の有効性	26-27
28		国立病院機構福島病院周産期母子医療センター新生児部門	石井 勉	出生前硫酸マグネシウム投与が超低出生体重児の生後早期におけるイオン化カリウム値に与える影響	S59-60
2017年6月2日(金) 14:50~15:50 第1会場					
一般演題⑤:胎児・新生児(合併症)等					
座長: 西久保敏也 奈良県立医科大学新生児集中治療部門 渡辺 尚 芳賀赤十字病院産婦人科					
29	○	奈良県立医科大学産婦人科	重光 愛子	I型先天性アンチトロンピン欠乏症合併妊娠の1例	28-29
30	○	医療法人社団中林病院産婦人科	中林 靖	Rubin法を用いた頸部筋腫合併妊娠子宮摘出術で子宮内に血栓を認めた1例	30-31
31		九州大学新生児内科部門	落合 正行	極低出生体重児における高フェリチン血症	S61-62
32		福島県立医科大学 総合周産期母子医療センター	今村 孝	重度発育不全を伴った早産児の短期予後 - 単胎と双胎での比較検討 -	S63-64
33	○	太田西ノ内病院小児科	知識 美奈	MRSA皮膚炎を伴った巨大乳児血管腫に対してpropranolol内服が著効した早産低出生体重児	32-33
34		榊原記念病院産婦人科	桂木 真司	新生児好中球減少症の一例	S65-66
2017年6月2日(金) 14:50~15:50 第2会場					
一般演題⑥:胎児・新生児(輸血)					
座長: 小山 典久 豊橋市民病院小児科 高橋大二郎 福田病院新生児科					
35	○	東京都立墨東病院輸血科	藤田 浩	交換輸血にはカリウム吸着フィルターは必要か?	34-35
36		福島県立医科大学小児科	小笠原 啓	小型化カリウム吸着フィルターの有用性に関する検討	S67-68
37		東京都立墨東病院輸血科	藤田 浩	血液製剤の院内分割マニュアル	S69-70
38	○	福岡大学	倉員 正光	Twin Anemia-Polycythemia Sequenceの供血児死亡後の受血児に胎児輸血した一症例	36-37
39		青森県立中央病院臨床検査部	北澤 淳一	日本輸血・細胞治療学会ガイドライン委員会策定「小児輸血のガイドライン」(案)	S71-72
40		青森県立中央病院臨床検査部	北澤 淳一	学会認定・臨床輸血看護師による、より安全で適正な輸血の推進	S73-74
2017年6月3日(土) 9:05~10:05 第1会場					
一般演題⑦:母体(合併症・輸血)					
座長: 水上 尚典 北海道大学周産期医学 金井 誠 信州大学小児・母性看護学領域					
41	○	大阪市立大学産科	植田恵梨子	常位胎盤早期剥離における児の予後に関連する因子の検討	38-39
42	○	信州大学産婦人科	藤森 美音	Fontan術後僧帽弁閉鎖症合併妊娠の1例	40-41
43	○	大和高田市立病院産婦人科	西岡 和弘	妊娠中にHbA1cの異常低値を契機にヘモグロビンE症の診断に至った1例	42-43
44		山梨大学附属病院 看護部	山中 浩代	自己血製剤内の大凝集塊の低減化への製剤保存前白血球除去処理の有用性 - 高リスク妊娠例での検討	S75-76
45		埼玉医科大学総合医療センター 母体胎児部門	酒井あゆみ	貯血式自己血における前置胎盤/低位胎盤症例の最適な貯血量	S77-78
46	○	東京都立墨東病院産婦人科	兵藤 博信	Rh partial D女性の妊娠例と管理法の検討	44-45

● 査読〇の演題は、本誌後半の学会誌に原著／症例報告として内容が掲載されています。

演題番号	査読	所属	氏名	演題名	ページ
2017年6月3日(土) 9:05~10:05 第2会場					
一般演題⑧: 母体(合併症・輸血)等					
座長: 伊藤 悦朗 弘前大学小児科 白川 嘉継 福岡新水巻病院小児科					
47		九州大学成長発達医学分野	石村 匡崇	家族性血球貪食性リンパ組織球症(FHL)の診断、治療の課題	S79-80
48		福島県立医科大学小児科	羽田謙太郎	乳幼児肝巨大血管腫に対し早期よりプロプラノロールを投与し有効であった1例	S81-82
49		豊橋市民病院小児科	五藤 智子	破砕赤血球を認める先天性溶血性疾患に対して、網羅的遺伝子解析により遺伝性熱奇形赤血球症と診断した一新生児例	S83-84
50		日本赤十字社東北ブロック血液センター 品質部検査一課	伊藤 正一	妊婦が保有する抗Jr ^s の性状及び児への影響	S85-86
51		山形県立中央病院小児科	若林 崇	遅発性貧血に対して輸血を必要としたRh(D)血液型不適合による新生児溶血性疾患の早産児例	S87-88
52		福島県立医科大学産婦人科	安田 俊	抗M抗体による重症血液型不適合妊娠をDFPPおよびhigh-doseVIG療法で管理した一例	S89-90
2017年6月3日(土) 13:15~14:35 第1会場					
一般演題⑨: 母体(出血)					
座長: 橋 大介 大阪市立大学産婦人科 前田 眞 三重中央医療センター総合周産期センター					
53		三重大学産科婦人科	田中 佳世	凝固障害を伴う羊水塞栓症におけるMassive transfusion protocols(MTP)の有効性	S91-92
54		横浜市立大学附属市民総合医療センター総合周産期母子医療センター	高見 美緒	フィブリノゲン製剤を使用し経膈分娩に至った、常位胎盤早期剥離による子宮内胎児死亡の1例	S93-94
55		福島県立医科大学産婦人科	経塚 標	高K血症、心室性頻脈になるも救命できた分娩時大量出血の1例	S95-96
56		宮崎市医師会病院産婦人科	松澤 聡史	産科出血における輸血量と母体予後の検討	S97-98
57		名古屋大学産婦人科	今井 健史	術前母体血中Protein S活性値と帝王切開時の出血量に関する検討	S99-100
58		埼玉医科大学総合医療センター母体胎児部門	中村 永信	産科出血でのフィブリノゲン迅速測定機器の有用性の検討	S101-102
59		総合母子保健センター愛育病院産婦人科	西嵐 優子	当院における分娩後出血に対するフィブリノゲン製剤使用の現状	S103-104
60		順天堂大学産婦人科	丸山洋二郎	切迫早産治療における長期末消静脈カテーテル留置に対するヘパリンの効果	S105-106
2017年6月3日(土) 13:15~14:35 第2会場					
一般演題⑩: 胎児・新生児(合併症)等					
座長: 川口 千晴 東大寺福祉療育病院小児科 吉尾 博之 旭川荘療育医療センター					
61		聖マリアンナ医科大学小児科	北東 功	過去11年間に吐血で入院した新生児の検査、診断、治療についての検討	S107-108
62		国立成育医療研究センター小児科	上原絵理香	新生児一過性プロテインC欠乏症に対し、長期補充療法を施行した1例	S109-110
63		東京都立小児総合医療センター新生児科	山口 哲司	ビタミンK欠乏症による凝固異常が遷延した帽状腱膜下出血の新生児の1例	S111-112
64	○	産業医科大学小児科	押田 康一	予定帝王切開で出生するも頭蓋内出血を認めた血友病Aの1例	46-47
65		奈良県赤十字血液センター	高橋 幸博	出生体重1,500g未満の新生児DICの臨床的検討 —全国アンケート調査との比較—	S113-114
66	○	雪の聖母会聖マリア病院新生児科	海野 光昭	症候性および無症候性頭蓋内病変を呈した先天性プロテインC欠損症の新生児2例	48-49
67		国立循環器病研究センター周産期・婦人科	陌間 亮一	血友病Bと重篤な先天性心疾患の出生前診断に対し迅速に対応し得た一例	S115-116
68	○	産業医科大学総合周産期母子医療センター小児科	水城 和義	輸血関連壊死性腸炎を発症した超低出生体重児の一例	50-51